



自立活動だより

NO. 14
文責
自立活動支援センター
令和4年3月18日発行

オオイヌノフグリが咲き始め、春を感じる季節となりました。卒業式を迎え、今年度も終わりが近づいています。

さて、夏休みや冬休み、春休みなど長期休業中にぜひやっていただきたいことは、耳鼻科の病院への通院です。学期に1回が理想ですが、最低でも年1回は、必ず通院して、補聴器や人工内耳の状態の確認及び耳の検査を受けていただきたいと思えます。学校でも、定期的に補聴器や人工内耳の点検及び聴力検査を行い、聴覚管理に努めてはいますが、やはり専門の医療機関で定期的に見ていただくことは非常に大切です。幼稚部や小学部の幼児児童のほとんどは、月に1回程度以上、欠かさず通院しています。しかし、中学部・高等部へと学年が上がるに従い、病院への定期通院が疎かになってしまう生徒が多くなります。病院で診察をしていただくことで、補聴器や人工内耳のフィッティングの再検討をしていただくことができ、より個々の聴力に合わせた状態で装用することができます。また、耳の中の外耳道や鼓膜の状態を診察していただくことで、病気の早期発見につながります。今年度まだ1度も通院していない幼児児童生徒は、必ず通院していただくようにお願いします。



ていねいに、ていねいとは ～汚れてもいい服の意味が分かること～

版画の刷りをするときには子どもたちに「明日は、版画の刷りをやります。服が汚れるといけないから、汚れてもいい服を持ってくること。」と話をすることがあります。実は、この「汚れてもいい服」は、意外と深い意味があります。

「汚れてもいい服」とは、

1 新しい服ではなく、着込んだ服。2 捨てるにはもったいない服。3 もし版画で汚れてしまって、インクが落ちない場合、捨ててしまってももったいない服。4 版画の時間に人前で着る服なのであまりにもみすぼらしい服ではなくて、人前で着ても恥ずかしくない服。などの言葉が頭に浮かび、それに基づいて選ぶ必要があります。これも、論理的思考といえます。また、抽象的な概念といってもいいかもしれません。

お子さんが家庭で「明日版画の刷りするから汚れてもいい服を持ってくるように言われたよ。」と話したとき、「じゃ、この服持って行きなさい。」と保護者の方が選んでお子さんに渡してしまえば簡単です。しかし、お子さんと話し合いながら汚れてもいい服を選ぶことができたなら、言葉を言葉で考える機会となり、抽象的な概念や論理的思考が育っていきます。どうして、先生は版画の刷りの時だけ、汚れてもいい服を持ってくるようにいったのか？どうして、汚れてもいい服の中に、普段学校へ着ていく服は含まれないのか。どうして、汚れてもいい服なのに、ポロポロのみすぼらしい服を選んではいけないのか。などなどお子さんと話すことが非常に大切です。

このようなやり取りが日常的に「ていねいに、ていねいに」行われると、抽象的な概念が育ちにくいために立ち足かかる9歳の壁を乗り越えていくことができる力が確実に育っていくと思えます。



線音源スピーカについて

昨年度から線音源スピーカを使って、授業はもちろん入学式や卒業式などの行事の時の音情報の保障に努めています。この線音源スピーカは、聴覚障がいの方々のために開発されたスピーカです。一般のスピーカとの違いは、一般のスピーカは、点音源スピーカと言われるスピーカです。このスピーカの場合、スピーカから音が四方八方に広がって伝わっていきます。このため、天井や床に音がぶつかり、音の反響が起こってしまいます。聴覚障がい者にとってこの音の反響は、音が不明瞭に聞こえてしまう原因の一つと言われています。このことは、お風呂や体育館のような反響しやすい場所での会話は、聴覚障がい者が苦手であることと同じです。一方、線音源スピーカは、点音源スピーカと違い、音が直線上に伝わっていきます。このため、天井や床に音が伝わるのが少なくなり、反響しにくいという特徴があります。更に線状に音が伝わるため音の減衰（音が小さくなっていくこと）が少なく、遠くまで音が小さくなることなく伝えることができます。

このスピーカは、地域の銀行でも採用されており、聴覚障がい者との会話に役立てられています。



今年度、自立活動支援センターでは、「自立活動だより」を月2回程度発行してきました。保護者の方々に最新の補聴器や人工内耳などの情報や聞こえにくさのある子どもへの言葉を育むためのヒントの提供をさせていただきました。1年間、お読みいただきありがとうございました。感想などを担任を通じてお寄せいただけるとありがたいです。

